

一九九四年

六月二三日	第六回講演会、甘粕健「蒲原平野と古代の国家―八幡林遺跡への道―」(ニュー越路、七〇名参加)、連絡協議会加盟団体一、個人二五二名
八月二六日	文化財保存全国協議会第二四回大会(佐賀市)で第三次保存決議
九月 四日	文化庁に要請行動(甘粕・文全協代表団)、署名四一九二人分を提出
一〇月二七日	八幡林遺跡保存連絡協議会ニュース第三号発行
十一月 三日	県教育委員会が本年度の調査概要を発表同日 建設省北陸地方建設局は一二日付の県知事の保存依頼に対してトンネル工法に変更して保存すると回答
十一月 八日	九三年度調査現地説明会 四〇〇人が参加
十二月二日	地元研究者検討会(平川を含む一八人)、八幡林遺跡保存記念講演会「今開かれる古代史の宝庫―八幡林遺跡―」(平川南ほか)沼垂白山神社参集殿、二〇〇名
一月二七日	県教育委員会、史跡指定申請書を文化庁に送付
四月二五日	国文化財保護審議会史跡指定の答申(一八日、県発表) 署名最終集約で三二〇六七人となる

二条大路木簡の蘇の荷札

長屋王邸内における蘇の製造を示す「牛乳煎人」「牛乳持参人」の木簡の発見はまだ記憶に新しいが、最近、二条大路木簡に諸国からの蘇の貢進を示す木簡が四点含まれていることが明らかになった(奈良国立文化財研究所『平城宮発掘調査出土木簡概報』三〇)。参河・美濃・武蔵(写真)・上総のもので、いずれも延喜式に蘇の貢進国として規定されている国々である。延喜民部省式では武蔵国は寅・申年の貢進国であるが、天平七年は亥年でありこれとは符合しない。なお、従来知られていた蘇の木簡は近江国の生蘇の荷札一点のみであり(『平城宮木簡』一―四六六号)、今回の発見によって蘇の荷札木簡は一挙に増加した。

